

けんぱくものしりシート

なんぶうるし
南 部 漆



うるし 漆とは“ウルシ”という木からとれる樹液です。わん 梶やはしなどの しょっきるい 食器類
びじゅつひん や美術品に、おも とりよう 主に塗料として使われています。

いわて けん にのへ しじょうぼう じまち むかし 昔からうるし 産地として知られており、その漆
はなんぶうるし と呼ばれています。なんぶうるし は外国産の漆よりも質が良く、国宝な
どの修理にも使われています。

うるし 漆のとり方

うるし 漆をとることを、うるし か 漆を掻くといひます。

うるし 漆をとり終わ
ったあとのうるし 木

①『かわむき鎌』で
かわをけずります。

②『かきかんな』で
傷をつけます。

③出てきたじゆえきを『かきべら』でとります。

④『かきだるい』に入れ
ます。



※道具の名前には、別の呼び方もあります。

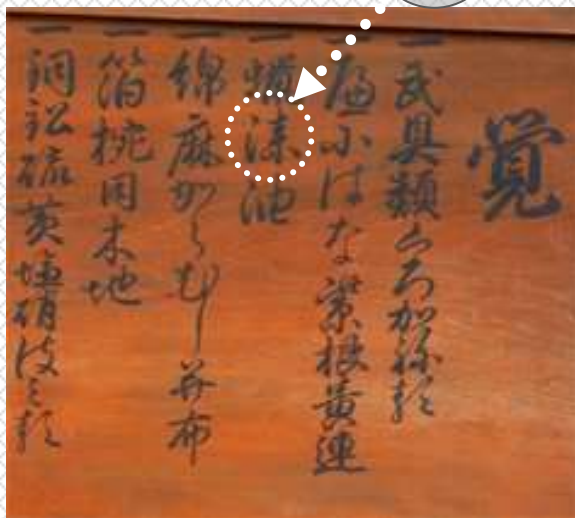


このようにしてとった漆を集め、移動中に漆が乾燥しないように紙をぴったりとくっつけ、ふたと底を二重にし、さらに嚴重に縄をかけてから出荷します。

左の写真は出荷する時の状態で荷造姿といえます。

下の写真は制札というものです。江戸時代に南部(盛岡)藩の藩境に置かれたもので、この制札に名前が書かれているものは藩の許可がないと通ることができませんでした。この中に、漆も書かれています。藩の外へ勝手に持ち出してはいけないほど、南部藩にとって漆はとても貴重なものだったのです。

うるし
漆



浮田番所制札(現在の花巻市東和町) 模造

原資料: 東和ふるさと資料館蔵

1804(文化元)年

総合展示室 いわたの歩み
(歴史)に展示されています。

参考にした本 『いわての漆』 岩手県立博物館 2010年

来月(11月)の
けんぱくものしりシートは
現勢・生物一だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>